

会 議 記 録

会議名称		第6回（仮称）コミュニティふらっと本天沼の運営に関する地域懇談会
日時		令和6年9月12日（木） 午前10時00分 から 正午
場所		消費者センター 第1・2教室
出席者	委員名	本天沼区民集会所利用者：塩谷委員、曾山委員 天沼区民集会所利用者：佐藤委員（代理出席）、平委員 ゆうゆう天沼館利用者：池川委員、本間委員 本天沼東町会：大場委員 荻窪地域区民センター協議会：杉浦委員 天沼青少年育成委員会：豊川委員
	オブザーバー	コミュニティふらっと本天沼運営事業者：安住氏
	事務局職員	地域施設担当課長、荻窪地域担当副参事、荻窪地域活動係長、地域施設係長、コミュニティふらっと整備担当係長、コミュニティふらっと整備担当主査、地域施設係職員1名、高齢者施策課施設担当係長、高齢者施策課いきがい活動支援係職員1名
傍聴者数		(有) 3 名 無
配布資料	事前	なし
	当日	・次第 ・全体のまとめ ・コミュニティふらっと本天沼の運営に関する地域懇談会に参加して
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会のあいさつ 2 「全体のまとめ」 3 各委員からの意見・議論 4 閉会のあいさつ 	
その他	なし	

1. 開会の挨拶

地域施設担当課長から挨拶

2. 「全体のまとめ」について

○事務局から資料を基に説明。

○オブザーバーからコミュニティふらっと本天沼で行う取組について説明。

・コミュニティふらっと本天沼の課題については、以下の6つに絞って考えた。

①ラウンジの有効活用について

中高校生の居場所、塾に通えない子どもの学習の場としてラウンジを活用することに加え、毎週木曜日の夜間、多目的室を子どもに開放する、「ティーンズラウンジ本天沼」を実施。

子どもが自由に遊べる場とするほか、ゲームをしたり、ゆくゆくは大学生ボランティアから勉強を教わる場にしたりする。

また、定年を迎えた人を募って活躍できる場をつくりたい。具体的には、孤食を失くすための食事の持ち寄り会などを実施する、「ティーンズラウンジ本天沼」の見守りをしてもらうなどを考えている。

②天沼地域の特性を踏まえた運用

天沼中学校区ということが大きな特徴と捉えているため、天沼中学校の校長にお願いし、オープニングイベントの中学生ボランティアを全校集会で声がけするとともに、ボランティア募集のチラシを配布した。

1年をとおしてボランティアに関わってもらうため、月1・2回継続して会議を開催し、オープニングイベントに限らず、中学生がどんなボランティアをやりたいか、というところまで考えていく。

③ふれあい、つながりを感じられるイベントの企画

最初から全ての世代が交流するというのは難しい。最初は中高校生など、同じ世代の、日中地域にいる人をターゲットにしていきたい。

④「楽しい、行くと得する」施設の見せ方

以前懇談会委員から提案があったフリーマーケットの実施について、荻窪・本天沼の地域では既に色々な場所でフリーマーケットが行われており、そこにコミュニティふらっととして関わっていきたいと思っている。すぐにプラットフォームをつくるのは難しいと思うが、まずは食事の持ち寄り会などでの雑談を通して情報提供を行っていききたい。

⑤趣味はないが、地域活動に参加したい人の活動の場

何か社会の役に立ちたい、という人に対して、イベントのお手伝いや障害を持った方がレクリエーションを行う際の引率など、様々なボランティアをピックアップして情報提供を行っていききたい。

⑥非常時に声を掛け合えるような顔見知りをつくる場

有事のことを考えるのは大切だが、施設の中で訓練をやるだけでは足りない。中学生の中には防災のボランティアをやっている子どもがいるので、そこと連

携したイベントを行うなどしていきたい。

また、本天沼は歴史ある地域であるため、地域の昔の写真をラウンジに貼るなどし、視覚的にも利用者に声をかけやすい工夫をしていきたい。

- 地域懇談会に参加して、利用者が集会施設に求めることは世代ごとに異なるのではないかと感じた。誰もが毎日来ても飽きない、と思えるような施設づくりをしていきたい。

3. 各委員からの意見・議論

- 最後の懇談会の会場がコミュニティふらっと本天沼であれば、避難経路の確認などができたと思うので、その点は残念だった。

土足禁止の部屋をつくってもらえたのは、ゆうゆう館利用者もみんな喜んでいる。

多目的室については、週に1回でもいいので、夜間だけでなく、放課後の時間も子どもに開放してほしい。

⇒オブザーバー：ティーンズラウンジでは、小中高生に向けて多目的室を開放する。

- 運営事業者（オブザーバー）からもっと早く話を聞くことができたら、議論がより深くなったと思う。

現在、コミュニティふらっととゆうゆう館とで高齢者福祉が二分されており、使い方なども公平でない状況である。事務局の説明で、「開設後何かあった場合は地域課が窓口になる」との発言があったが、本当にできるのか疑問である。コミュニティふらっとに対する要望を7月に出したが回答には何カ月もかかると言われているが、もっと早くに回答できないものか疑問である。

開設後も地域課題に対応するため仕組みをつくるということだが、「意見を聞くふり」にならないか心配している。

調べものをする等で多くの人が施設を利用する想定とのことだが、ルーターを貸出するのは古い。貸室内も含め、全館フリーWi-Fiにするべきである。

趣味や第二の人生を謳歌できる場所としては、常設の木入室などをつくってほしい。常設にしないと人は集まらない。区が主体となって、みんなが深堀できる会議を考えてほしい。

⇒事務局：鉄筋コンクリートの壁だとうまくフリーWi-Fiの電波が飛ばないこともある。これを改善するためには各部屋にアクセスポイントを設置する必要があるが、工事が高額であるため、貸出方式をとっている。
なお、ラウンジではフリーWi-Fiが利用できる。

- 懇談会という場をもてたことが、関係をつくることにもつながった。荻窪地域でフラットな関係で議論できた。

当初からコミュニティふらっとの概念がよく分からなかった。今でも完全には理解できていないものの、今までの区民集会所は、目的があって、必要があって行

く場所。コミュニティふらっとは、運営事業者が区と連携して、地域の活動・課題の解決をする場、と理解した。その概念をどのように伝えていくかが重要である。今までの施設とは意味合いが違うため、色々と意見交換しながら運営できるとよい。

また、何か取組を行うに当たって、「ラウンジだけでは狭いため多目的室も利用する」など事業者が入って工夫をするというのは良いことだ。

- 土足禁止の部屋ができたのはよかった。今までは区が住民の声を聞くという姿勢が希薄だったが、その声を生かす形に変わってきたのはいいことだと思う。

区民集会所時代には、窓口の職員と関わることはほとんどなかったが、今後は運営事業者が地域と関わりに来てくれるというので安心した。

事業者の取組に「天沼地域の特性を踏まえた運用」とあるが、高齢者に対する考えがあるか聞きたい。

自分は町会とのつながりがほとんどない。町会の役員の声＝住民の声とは限らないので、しっかりと住民の意見をきいてほしい。

運営事業者（オブザーバー）からの説明をもっと早く聴くことができたら、もっと実りのある会議になったのではないかと思う。

⇒オブザーバー：本天沼の地域は古い大きな家が多いが、最近では土地が分譲されたり、シェアハウスができたりしている。高齢者が単身になったあとも大きい家に住み続けるのか、という課題があると認識している。独居になった高齢者が外に出たくなるような関わりを増やしていきたい。まずは食事の持ち寄り会などに参加してもらい、施設に来るきっかけにしてほしい。

- ラウンジにカメラを設置するとの話だったが、設置してあるのか。

⇒事務局：設置してある。

- 区公式 HP のコミュニティふらっと本天沼の施設案内に平面図が載っていない。

⇒事務局：準備ができ次第、掲載する。

- 住民の声を取り入れるための地域懇談会を実施するのは新しい試みで、大変なこともあったと思う。

天沼中学校でボランティア募集のチラシが配られているが、どんまい福祉工房の取組はとてもよく考えていただいていると思う。ウェルファーム杉並で実施している子ども向けのイベントの中には、利用するための条件があるものもある。ティーンズラウンジなど、コミュニティふらっと本天沼で行う取組では制限なく、誰でも行けるようにしてほしい。

- 子どもにとってコミュニティふらっと本天沼が良い施設になるのか心配があったが、運営事業者（オブザーバー）の話を聞くと期待が持てうれしく思う。コミュニティふらっとはこれまでであった複数の施設の役割を背負って開設するものである。地域課の施設ではあるが、子どもも高齢者も来るため、担当の課と連携を

しっかりとって、福祉や学びの面にも目を向ける施設になってほしい。
他の委員が言っていた「常設になったら人が来る」というのは実際にそうである。不定期の実施ではなかなか定着しない。「いつでもゲームができる場所」「毎週〇曜日はボール遊びができる」ということであれば、子どもも喜ぶ。ボランティアへの期待は大きい、性質上集まらない可能性もあるので、必要なものにはしっかりと予算をつけて、お金を払ってほしい。
ラウンジが奥まっている点は引き続き心配なので、安全面もしっかり考えてほしい。

- 今後は運営事業者が施設の管理運営をすることになると思うが、これまで懇談会で出た要望ができるだけ運営に反映されることを期待している。
オープニングイベントには荻窪地域区民センター協議会も、ポップコーンを配ったり、缶バッチづくりコーナーを設けたりする。常設であることの必要性も分かるが、協議会としてはイベントで色々な地域の人に集ってもらい、「こういう施設なんだ」と感じてもらえるような企画を練っていきたいと思っている。
協議会にとってはこの1年間は有意義だった。
- 町会としては本天沼区民集会所をほとんど利用していなかったが、個人の団体として利用していた。今まで本天沼区民集会所の予約は取りやすかったのが便利だったが、利用率が低いことは施設としてはあまり良いことではないと思うので、コミュニティふらっとになって利用が増えると良い。
- 区で初めての懇談会ということで、制約はあったものの、一定程度の要望が通ったのはよかった。これまでの議論があったからこそ、運営事業者の提案につながったと思う。
事務局の「今後課題が生じた場合、地域課を通して意見を言えば各課に反映する」という発言はどういうことか。地域で行われた施設の集約など、全体の計画に関することも地域課が窓口になるのか。
⇒事務局：例えば子どもの居場所で考えると、子どもたちが施設をどのように使っているかは地域課の方で把握できるが、その使われ方の検証については児童青少年課が行うものであると思う。地域課だけでは利用状況の良し悪しを判断するのではいけない、という認識である。
- 包丁研ぎや古着回収などは引き続き実施されるのか。
⇒事務局：開設後も同じように実施する。
- フェニックス杉並の地域交流スペースの開放は、コミュニティふらっと本天沼の工事期間中だけの暫定対応だったのか。
⇒事務局：地域交流スペースの貸出は、運営事業者が地域貢献の取組として実施している。コミュニティふらっと本天沼が開設したから貸出しなくなる、ということはない。
- コミュニティふらっとにおけるゆうゆう館の機能継承には限界があると思う。地

域としてのゆうゆう館構想についても気になる。

高齢者の専用施設、児童館は必要だと思っている。若杉小学校跡地の活用についても現在委員を公募しているので、関心のある人は応募すると良いと思う。

- 子どもの居場所や高齢者福祉に対する意見について、地域課が窓口になってどうするのか。

⇒事務局：一番運営を身近に見ているのは地域課であるため窓口は地域課となるが、実際の施設のあり方については担当課と共有・連携しながら、一緒に考えていくものだとして認識している。

- 今現在、ゆうゆう館をコミュニティふらっとに継承できていると思っているか。

⇒事務局：実際に継承できたかできていないかは、開設後に判断することになる。引き継ぐための準備はしている。

- 利用時間や利用可能な枠数などがゆうゆう館とコミュニティふらっとでは異なっているのに、引き継いでいる、というのはどうかと思う。

令和6年度下半期は、ゆうゆう館と同じように活動ができることになったが、今後利用希望が重複した場合などはどうなるか分からない。この間、区に対して意見を言ってきたが、明確な回答は得られておらず、保留の状態である。ここまで時間がかかるのはどうしてなのか。

⇒事務局：どうやったら引き継ぐことができるか、というのは、最初にコミュニティふらっとを整備するにあたり、検討した上で制度設計している。今回いただいた要望については、課題と認識している。運用の変更については全ての施設に影響があることなので時間がかかるとお伝えしている。

- 本天沼区民集会所の和室で、百人一首の団体に活動していた。この間、活動には畳が必要である、と意見を言ってきたが、結果としてコミュニティふらっと本天沼では、ジョイントマットの設置のみとなってしまった。高齢の利用者にとって畳は重くて運びづらい、という理由でジョイントマットになったことは理解できるが、影響を受ける団体がある、という点は認識いただき、今後に生かしてもらいたい。

○傍聴者意見

- 多目的室の二方向避難について、入り口のほか、窓から避難するということが、しっかり安全性について検証させていただきたい。
- さざんかねっとのガイドブック上、多目的室の利用種目に演劇が設定されていないが、窓を二重サッシにしたことにより演劇可能になった、ということでしょうか。

⇒事務局：現在配布しているガイドブックには正誤表をつけており、そちらでは多目的室の利用種目に演劇を設定している。

- いざ避難するとなったとき、小さい子どもや高齢者が窓から避難することはできないのではないか。消防法上は問題ないとしても、複数の経路を確保すべきである。

⇒事務局：荻窪消防署には相談した上で、避難計画・訓練などで万全を期すようにしたい。

- 多目的室で発表会をする場合、出口が一つしかないため楽屋とステージを行き来する動線がよろしくない。当初から設計していれば出口をラウンジ側に設けられたと思う。今回の失敗については反省し、また改善の余地があるのであれば予算をつけて対応してほしい。

○その他委員意見

- 外側の窓の高さはどのくらいか。避難の際は椅子を使うということだが、外には椅子はないと思う。地域課から見て安全と判断したのか。

⇒事務局：地域課だけで判断することは適切でないため、消防署の意見を聞いた。窓の高さについては改めて確認する。

- コミュニティふらっと本天沼の防災面は地域の方はみんな心配している。消防法上問題がないというが、法律はあくまで最低の基準である。奥の方にもう一つ出入口があれば使いやすかった、というのも、最初の説明会から出ている意見である。

4. 閉会のあいさつ

地域施設担当課長より挨拶